

100th anniversary

鶴見大学附属中学校・高等学校
100周年



100周年を迎えて

総持学園鶴見大学附属中学校・高等学校は創立100周年を迎えました。大正13年（1924年）11月22日、瑩山禪師600回大遠忌の記念事業の一つとして、光華女学校の運営を引き継いだのが始まりです。

初代校長中根環堂先生は瑩山禪師の「女人救済」というご誓願を建学の精神とされ、

教育の根本は、人を作ることである。日本人らしい女性を作ることである。知恵のすぐれた人とか、学者を作ることが、教育の目的であってはならない。社会に役立つ人間、落ち着いた人間を作らねばならない。いかなる困難に対しても恐れず、些細（ささい）なことにもしっかかっていって、貧しくともそれに屈せず、海が干上がっても動じない。落ち着いて、どんなことにも動じない精神と、志を堅く守って、変えない信念を持ち、自分を信じることを貫き通す人でなくてはならない。

という理念のもと、日々、生徒と一緒に過ごされてきました。その教育理念は、女子校から共学校に変わった現在でも、一日たりとも絶えず受け継がれています。環堂先生が掲げたり建学の精神「大覚円成 報行持（感謝を忘れず真の人となる）」のもと、人として当たり前のことを日々実践できる、頭のいい人ではなく本当に賢い信念のある人間らしきことをこの人間をつくることを教育理念とし、日々、学校生活を送っております。

これから私たちが生きていく社会は、急速な技術革新のもと、グローバル化や情報化がますます進み、仮想空間と現実空間が融合した新たな未来社会Society5.0になると言われています。これからの社会はますますインターネットやAIが進歩し、働き方や生活形態が一変することでしょう。

環堂先生が、常に、生徒、教職員に「随所に主となる（いつでも、どこでも、自分の置かれた場所や、状況の中で、精一杯、こころを込めて勤め、励み、主体的に行動し、相手を最善に生かさない。そうすれば、自分が生かされ、光ることによって一所懸命になれば、真実が、現れてくる。）」人になりなさいとおっしゃっていただきました。先が見えない世の中だからこそ、幸せに生きていくために、自分の置かれた場所、状況で最善を尽くせる人として、どのような場所でも、自分らしく輝くことができるように、自分の目標に向けて日々の学習や学校生活を送り、一日一日を無駄にせず、日々成長する必要があります。

次は何に挑戦しようかとワクワクしながら、まずは、やってみようという気持ちで、一歩踏み出し、何事に対しても「全力でチャレンジする」。失敗してもいい、それは、将来への大きな前進につながる。日々探究心を持ち、一步一步確実に成長し、この1年間を振り返ったときに、他の人との比較ではなく、今の自分と比べての成長を実感してくれるように、我々教職員は後押しをしております。

これまでの歩みのなかで学んだことを力として、次の100年に向けて、教職員一同、創立以来の情熱と行動力を胸に、懸命に努めてまいります。今後ともご支援を賜りたくお願い申し上げます。



第十一代校長 岸本力也

100年の歩み

大正13（1924）4月

光華女学校設置。横浜市中区大岡町 総持会館。中根環堂、校長に就任

大正13（1924）9月

学校を大岡町より大本山總持寺香積台に移転

大正13（1924）9月

校舎を現在地に移転

大正14（1925）2月

鶴見高等女学校設置（大本山總持寺開山常濟大師600回大遠忌記念事業）

昭和12（1937）4月

光華女学校を鶴見第一女学校に校名変更

昭和19（1944）1月

学園の経営母体を財団法人総持学園とする

昭和19（1944）4月

鶴見第一女学校を鶴見女子実業学校に校名変更

昭和22（1947）4月

新制鶴見女子中学校を設置

昭和22（1947）11月

鶴見女子実業学校を鶴見第一女学校に校名還元

昭和23（1948）4月

鶴見第一女学校、鶴見高等女学校を合併統合し、新制鶴見女子高等学校を設置

昭和34（1959）11月

中根環堂、初代校長逝去

昭和59（1984）10月

中学・高等学校創立60周年記念講堂・図書館竣工

平成19（2007）4月

鶴見女子中学校・高等学校を鶴見大学の附属とし、鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校に名称変更

平成20（2008）4月

鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校を鶴見大学附属中学校・高等学校に名称変更

平成21（2009）3月

教科エリア・ホームベース型校舎竣工

平成21（2009）4月

附属高等学校仏教専修科創設

平成26（2014）11月

学園創立90周年記念式典

令和 6（2024）11月

学園創立100周年



学校を支えた歴代校長



初代 中根環堂 大正13年～昭和34年



2代 三澤智雄 昭和34年～昭和42年



3代 近藤壽治 昭和43年～昭和44年



4代 渡辺樫雄 昭和44年～昭和45年



5代 渡邊潜龍 昭和45年～昭和50年



6代 中根専正 昭和50年～平成10年



7代 菅原節生 平成10年～平成18年



8代 伊藤克子 平成18年～平成22年



9代 中川光憲 平成22年～平成27年



10代 亀山仁 平成27年～令和4年



11代 岸本力也 令和4年より

100年の歩み

戦前～

大正13年（1924）

- 4月 光華女学校設置。横浜市中区大岡町 総持会館。中根環堂、校長に就任
- 9月 学校を大岡町より大本山總持寺香積台に移転 9 校舎を現在地（206㎡）に移転
- 10月 校服制定
- 12月 校章制定

大正14年（1925）

- 2月 鶴見高等女学校設置（大本山總持寺開山常濟大師600回大遠忌記念事業）
- 5月 校舎竣工、生徒自治会「薫風会」誕生
- 9月 校友会会則制定
- 12月 運動場設置

大正15年（1926）

- 2月 鶴見高等女学校開校式並びに校舎落成
- 6月 寄宿舍（光華寮）竣工

昭和2年（1927）

- 4月 「つるのはやし」創刊
- 10月 校舎（弘誓館）竣工

昭和3年（1928）

- 3月 光華女学校第1回卒業式
- 12月 弓道場設置

昭和4年（1929）

- 3月 鶴見高等女学校第1回卒業式 3 校舎（恭敬館）竣工

昭和5年（1930）

- 5月 光華女学校を鶴見女子職業学校に校名変更
甲種4カ年、乙種3カ年制とする

昭和2年断食会



昭和4年正面玄関



昭和6年(1931)

4月 ハワイより留学生受け入れ始まる 6校舎(精進館)竣工

10月 鶴見女子職業学校を光華女学校に校名還元。

学則改正。(第一本科4カ年第二本科3カ年、研究科1カ年)

昭和7年(1932)

6月 校章制定

昭和9年(1934)

10月 光華女学校、鶴見高等女学校鶴友会誌「はたらき」(月刊)創刊

昭和10年(1935)

9月 校舎(修徳館)竣工

昭和11年(1936)

4月 校服改定 4校舎(慈眼館・光照館)竣工

昭和12年(1937)

4月 光華女学校を鶴見第一女学校に校名変更

家政科、経済科の各4カ年制とする

10月 講堂設置

昭和13年(1938)

4月 学校報国団結団式

10月 学園創立15周年記念式典

昭和14年(1939)

7月 道守地蔵尊開眼供養



昭和15年（1940）

11月 白浜修養道場開設（千葉県安房郡白浜町万願寺）

昭和16年（1941）

9月 報国隊結成式

昭和17年（1942）

3月 中根環堂校長、駒澤大学学長に就任

5月 光華寮修築工事竣工

9月 英語が随意科目となり、作業科とする

昭和18年（1943）

3月 「つるのはやし」と「はたらき」が合体し「鶴之林」（18号）を発行

3月 午後5時50分、本校出火。講堂を残して全校舎焼失

4月 總持寺天真閣、待鳳館、東台小学校校舎の一部及び講堂等にて授業開始

5月 中根環堂校長、学校の復興に専念するため駒澤大学学長を辞任

12月 学校報国団総動員令により東芝、日産等の工場へ生徒動員始まる

昭和19年（1944）

1月 学園の経営母体を財団法人総持学園とする

4月 鶴見第一女学校を鶴見女子実業学校に校名変更
家政科を技術科、経済科を商業科に名称変更

昭和20年（1945）

2月 東部第1900部隊、本校校舎を使用

4月 疎開生徒激増

8月 終戦により動員生徒、工場から全員復校
校舎使用の東部第1900部隊解散



100年の歩み

戦後～60周年

昭和21年（1946）

- 1月 進駐軍部隊講堂を使用
- 11月 校舎（慈眼館）竣工。復興祭

昭和22年（1947）

- 2月 鶴見女子実業学校、鶴見高等女学校援護会設立
- 4月 六・三・三制実施に伴い新制鶴見女子中学校を設置
- 6月 生徒自治会設立 「鶴の林」復刊（タブロイド版）
- 10月 P.T.A. 双輪会設立
- 11月 鶴見女子実業学校を鶴見第一女学校に校名還元

昭和23年（1948）

- 4月 鶴見第一女学校、鶴見高等女学校を合併統合し
新制鶴見女子高等学校を設置（普通科、家庭科、商業科）
- 6月 双輪会規約改正。援護会と双輪会を合併
- 10月 学園創立25周年記念式典、校舎（精進館、発心館）竣工

昭和24年（1949）

- 3月 創立25周年記念誌発行
- 10月 制服改定
- 11月 「鶴の林」タブロイド版より A5判の冊子に復す
鶴見女子成人学校（各種学校）を設置
- 12月 赤十字赤い羽根募金の募金額全国1位で表彰

昭和25年（1950）

- 4月 坂本学園興国中学校・高等学校（男子校）の運営を継承し、鶴見学園中学校・高等学校に校名変更

昭和26年（1951）

- 3月 財団法人総持学園より学校法人総持学園に組織変更
- 4月 鶴見女子高等学校普通科にコース制導入（家政、文科、理数）
- 5月 校服改定
- 10月 校舎（和光館）竣工

昭和27年（1952）

- 4月 鶴見女子高等学校家庭科にコース制導入（家庭、被服）
- 10月 校舎（道光館）竣工



昭和39年上空から見た校舎全景

昭和28年（1953）

- 3月 鶴見学園中学校、高等学校を閉校
- 5月 中根環堂学園長、神奈川県私学教育功労者として県知事より表彰
- 5月 学制発布80周年式典に際し、中根環堂学園長が教育功労者として文部大臣より表彰
- 9月 体育館竣工
- 10月 学園創立30周年記念（体育館竣工、短期大学設置）祝典

昭和29年（1954）

- 10月 中根環堂学園長、産業教育70周年式典に際し県知事より表彰

昭和30年（1955）

- 3月 中根環堂学園長、第2回横浜市文化賞受賞
- 5月 中根環堂学園長、藍綬褒章受章
- 8月 校舎（浄光館）竣工
- 10月 体育館で第10回国民体育大会バトミントン競技を実施

昭和31年（1956）

- 9月 社会福祉事業の功績に対し県知事より表彰

昭和32年（1957）

- 1月 双輪会元役員による「道交会」設立。会長、武田憲平
- 9月 中根環堂学園長、私学振興の功労により神奈川県文化賞受賞

昭和33年（1958）

- 12月 生徒会新聞「鶴女時報」（季刊）創刊

昭和34年（1959）

- 2月 校舎（慈眼館）竣工
- 11月 学園創立35周年記念講演「科学文明の行方」湯川秀樹博士紹介後、中根環堂学園長遷化
渡邊潜龍、学園長代理に就任
- 11月 学園創立35周年記念式典、故中根環堂学園長の胸像除幕式
- 11月 故中根環堂学園長、学園葬、正六位勲五等瑞宝章下賜
- 12月 三澤智雄、学園長及び校長に就任



昭和34年記念公園での湯川秀樹博士

昭和39年（1964）

- 8月 プール2面設置

昭和40年（1965）

- 4月 講堂において總持寺二祖国師600回大遠忌記念曹洞宗教育者大会開催
- 4月 高松宮御夫妻来校
- 10月 運動場拡張

昭和42年（1967）

- 8月 弓道場竣工
- 11月 大学同窓会設立
- 11月 学園長三澤智雄遷化
渡邊潜龍、校長代理に就任

昭和43年（1968）

- 2月 近藤壽治、学園長及び校長に就任
- 10月 故三澤智雄学園長1周年にちなみ校庭に弥勒菩薩像建立

昭和44年（1969）

- 4月 渡辺椋雄、学園長及び校長に就任
- 11月 学園創立45周年記念式典



昭和36年調理実習の一幕



昭和43年文化祭

昭和43年坐禅会



昭和41年図書館の様子



昭和45年（1970）
4月 渡邊潜龍校長代理、副学園長及び中学・高等学校長、成人学校長に就任
6月 後援会設立
会長・横山健一

昭和46年（1971）
3月 校舎（光照館）竣工
4月 鶴友同窓会機関誌「はたらき」復刊

昭和47年（1972）
10月 渡邊潜龍、学制100年記念式典において文部大臣より教育功労者として表彰

昭和48年（1973）
4月 高等学校家庭科を調理科に名称変更し生徒募集を再開
普通科の家庭・文科・理科の各コースをⅠ類・Ⅱ類・Ⅲ類に名称変更

昭和49年（1974）
3月 校舎（浄光館）竣工
12月 隣接地7,500㎡の校地取得

昭和50年（1975）
3月 バレーコート3面設置
4月 渡邊潜龍校長、名誉校長に就任
中根専正、校長に就任
10月 学園創立50周年記念式典

昭和51年（1976）
4月 高等学校栄養科学科を食物科に名称変更

昭和53年（1978）
1月 校舎（発心館）竣工
10月 体育館（現道光館）竣工
11月 テニスコート（全天候式）設置

昭和54年（1979）
1月 剣道道場（直心館）竣工

昭和57年（1982）
4月 高等学校普通科コース制（Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類）を教養・総合・文理コースに変更
12月 新弓道場（道心館）竣工

昭和55年朝礼



昭和55年校舎



昭和55年小山美江子先生講演会



昭和57年扇の舞

昭和59年（1984）

10月 学園創立60周年記念式典

創立60周年記念講堂・図書館（6,700㎡）竣工

10月 本尊釈迦牟尼如来像開眼供養

10月 創立60周年記念誌「人々悉道器」刊行

11月 記念講堂こけら落とし（松山バレエ団）

昭和59年頃の生徒の様子



昭和60年（1985）
11月 高等学校2年生、第1回日中友好修学旅行





平成2年花祭り



平成2年水泳大会



平成7年参禅会



平成5年光照館

100年の歩み

平成～共学化

平成5年(1993)

9月 月1回土曜日休日(1993)の週5日制を実施

平成6年(1994)

4月 商業科を改組して経済情報科を設置

4月 授業週5日制を実施

10月 学園創立70周年記念式典

平成7年(1995)

2月 阪神大震災救援ボランティア活動を実施

7月 獅子ヶ谷総合グラウンド(35,168㎡)設置

平成10年(1998)

4月 菅原節生、校長に就任

平成16年(2004)

10月 学園創立80周年記念式典

記念誌「未来へはばたけ夢と希望」刊行

平成18年(2006)

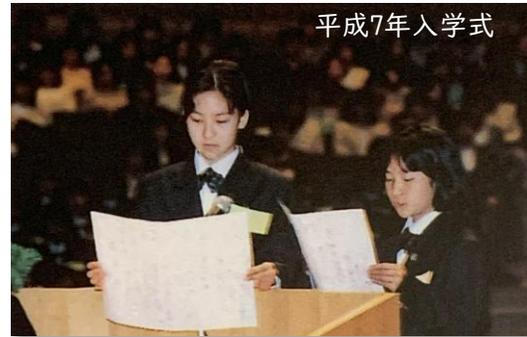
4月 伊藤克子、校長に就任

平成19年(2007)

4月 鶴見女子中学校・高等学校を鶴見大学の附属とし

鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校に名称変更

4月 獅子ヶ谷グラウンド(硬式野球場)(35,166㎡)竣工式





平成15年頃の生徒の様子



平成16年中国修学旅行



平成19年附属化体育祭

平成20年共学化



平成20年（2008）

4月 鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校を鶴見大学附属中学校・高等学校に名称変更し、制服改定、男女共学

12月 鶴翔寮竣工



平成20年頃の生徒の様子



平成21年（2009）
3月 新校舎（教科エリア・ホームベース型）
（9,902㎡）竣工
4月 仏教専修科創設

平成21年教科エリア・ホームベース型 新校舎完成



教科エリア+ホームベース型校舎

学校生活の中心となる「ホームベース（HB）」を、各教科の「教科エリア」が取り囲む構造になっています。生徒が教室に「来る」のではなく、生徒が学びに「行く」ことで能動的・主体的に授業に参加する姿勢を身につけ、学びへの興味・関心を育みます。ホームベースでは、禅の教えに基づく教育やクラスメイトとの交流で豊かな人間性を育みます。教科エリアでは、教科の特性に合わせた教室と生徒の興味・関心を刺激する「メディアセンター」が設置されています。また、教員が待機する「研究室」があり、わからないことはその日のうちに教員に質問しに行くことができます。

平成23年スキー・スノーボード実習



平成23年中3青森修学旅行

平成22年（2010）

- 4月 中川光憲、校長に就任
- 4月 3ステージ制導入

平成24年（2012）

- 5月 「大本山總持寺の成立と発展 新たな百年に向けて」刊行
- 10月 鶴見大学創立50周年・鶴見大学短期大学部創立60周年を記念して鶴見大学公式マスコットキャラクター「つるみん」が誕生、学園祭でお披露目



平成26年文化祭にて
マスコットキャラクター
「つるみん」

平成24年文化祭



平成26年（2014）

- 3月 中学3年生オーストラリア語学研修旅行実施
- 11月 学園創立90周年記念式典・祝賀会挙行記念誌「感謝を忘れず真人（ひと）となる」刊行

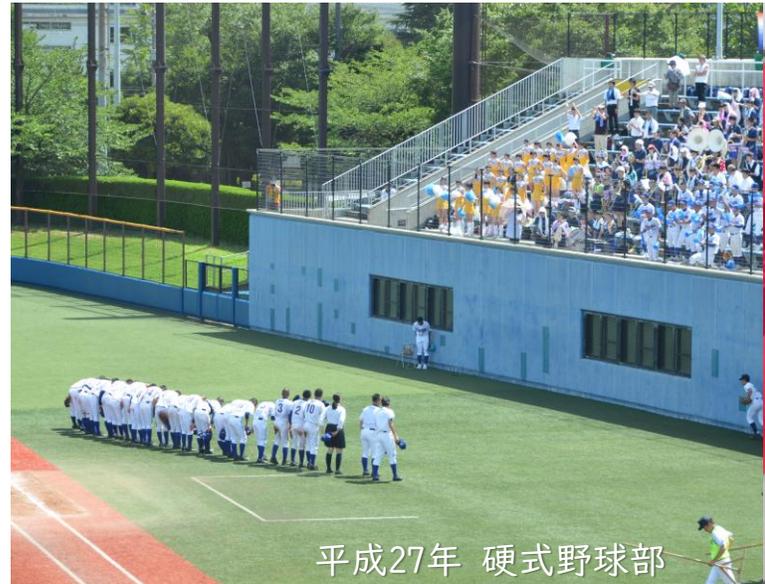
平成24年 1stステージ合唱祭



平成24年 卒業式



平成25年 中3オーストラリア語学研修



平成27年 硬式野球部



平成28年エイブラハムリンカーン校来校



平成28年 花まつり・散華の舞

平成27年（2015）
4月 亀山仁、校長に就任

令和2年（2020）
3月 新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休校により卒業式・課程修了式・ステージ終了式を縮小して挙行。終業式を学年別登校日にクラスごとにL.H.R.にて実施。

令和3年（2021）
新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休校により行事等を大幅に変更。

4月 課題配信
5月 配信授業。オンラインで教育相談を実施。
6月 分散登校

令和4年（2022）
4月 岸本力也、校長に就任

令和6年（2024）
11月 創立100周年記念式典挙行・記念講演会開催

令和元年 中学課程修了式

贈 鶴友同窓会



令和元年 朝の時間

令和2年 弁論大会



令和2年
イングリッシュキャンプ



令和4年 書初め



令和5年 文化祭



令和5年 授業の様子

令和5年 鑑賞会



令和3年
新入生オリエンテーション



100年を迎え

100周年記念事業

- 令和3年（2021）12月 鶴友同窓会より60周年記念講堂舞台袖幕寄贈
令和5年（2023）6月 鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム「総持学園における
仏教を基とした教育の歴史と今後の展望～総持学園創立100周年
を記念して～」開催。本校修徳部長・上野正人教諭も「黙念で
始まり黙念で終わる学校生活」と題して講演。
7月 制服に夏用ポロシャツを正式採用

- 令和6年（2024）2月 初代校長・中根環堂先生胸像改修
3月 創立100周年記念事業実行委員会設置
5月 学校ホームページ完全リニューアル
5月 生徒会による100周年記念ロゴ完成



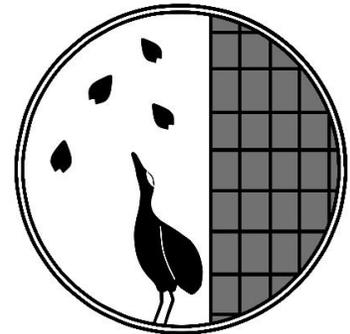
100周年記念ロゴ



金賞：花見悠希さん



銀賞：長瀬真希さん



Tsurufu
100Anniversary

銅賞：藤原伽怜さん

次の100年に向けて

本校では、建学の精神である「大覚円成」「報恩行持」（感謝を忘れず真人となる）を基盤として、学園創立90周年を機に、次の100周年に向けて教育目標宣言「学びの心で世界を変える。」を掲げ、教育目標の達成に向けて「人間力」「基礎学力」をベースとして、「挑戦する力」「探求する力」「共に生きる力」の5つの力の育成に取り組んでまいりました。

学園創立100周年を迎えるにあたり、改めて「自校に求められている役割は何か」

「100年後もより良い教育を行っていくためには何をしていくべきか」、初志を温め、これからの時代に求められる学校像として、初代校長中根環堂先生も話された言葉であり、現在も本校に根付いている「随所に主となる」力を育てる学校を目指して、教育改革（Crane翼プロジェクトⅡ）を実施してまいります。

建学の精神

「大覚円成」「報恩行持」 ～感謝を忘れず真人となる～

豊かな智慧と自立した判断力を磨くように 精進しよう。

自分が生かされていることへの感謝の念のもとに

今一番大切と考えられることを実行し続けることが、成長につながるのです。

教育目標宣言

学びの心で世界を変える。

挑戦する心や新しいことに目を向け探究していく心を本校では「学びの心」と呼びます。

本校での学びの中で、この「学びの心」を養い生徒一人ひとりが持つ価値観という

「世界」と、これから生徒たちが羽ばたいていくグローバルな「世界」で輝くよう、教育実践を行います。

育みたい力資質・能力

随所に主となる

先の見えない世の中だからこそ、幸せに生きていくために「自分が選んだ場所・与えられた場所で、自分らしく輝く」ことができる力の育成を目指します。好きな学び、好きな自分、すばらしい仲間、すなわち自分の「好き」に出会って、自らの夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせて欲しいと願っています。



「随所に主となる力」を養うために

「随所に主となる」力を養うために、「主体的に学ぶ」ための教育施策を展開してまいります。

「主体的に学ぶ」ためには、「自分で自分の学習や行動をコントロールする力」を身につけることが重要となります。そのために、自身の認知活動を客観的にとらえる「メタ認知能力」、計画→実行→振り返りといった次の行動や活動における「見通す力」、生徒たちの学びや活動への意欲的な行動の源となる「動機づけ」を強化する取り組みを教育活動の中に落とし込んでいきます。さらに、これらを良質な活動に繋げるための物理的にも心理的にも「安心して学べる環境」を整え、生徒たちが様々なことに挑戦できる場づくりにも力を注いでまいります。

「随所に主となる」力を養うための施策の方向性

メタ認知能力の育成

1. メタ認知能力育成を意識した授業デザインの研究、データに基づく実践とブラッシュアップ
2. 教科横断型授業の研究と実践

鶴附メソッド

探究的な学び、教科横断的な学びの創造

教科エリア+ホームベース型校舎の特性を活かして、学びの心を育みます。

見通す力の育成

1. 「授業→テスト→振り返り」の学習サイクル指導の見直し
2. 家庭学習のいっそうの充実に向けた取り組みの見直し

鶴附メソッド

Gyro手帳

手帳を活用して、自己管理能力を高めて、PDCAサイクルを確立します。

動機づけ

1. 興味・関心を育む授業の研究と実践・持続可能な部活動
2. 行事の構築
3. グローカル・カリキュラムの確立と実践

鶴附メソッド

つるふグローバル・カリキュラム

GLOBAL×LOCAL。地球規模で考え、足元から行動する力を養います。

安心の学習環境

1. 生徒と教員のコミュニケーションの場の充実とその時間創出のための業務効率化
2. 研修制度の充実

鶴附メソッド

チーム鶴大附属

教員・事務職員・スクールカウンセラー・教育相談支援員・チューター（学習相談支援員）部活動コーチ、学園、双輪会（PTA）・鶴友同窓会が、チーム一丸となって、子どもたちの豊かな学びを支援します。

あとがき

あとがき—「一点になり切れ」

禅に「平常心是道」という教えがあります。当たり前が当たり前に行える、普段通りのことが普段通り実行できる、それが平常心です。その当たり前や普段のレベルを高く追究するさまを瑩山禅師は「茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す」と表現され、環堂先生は「一点になり切れ」と生徒に呼びかけられました。その伝統を受け継ぎ、次の100年に向けて改めて「一点になり切っ」て志高く生徒・教職員ともども努めてまいります。

このデジタルフォトブックは、90周年記念誌編纂委員会・編『創立90周年記念 感謝を忘れず真人になる』（学校法人 総持学園）を基に、新たな情報を加えて作成いたしました。また、作成にあたっては株式会社 学術企画様にご尽力いただきました。御礼申し上げます。



〒230-0063
神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-2-1
電話番号：045 (581) 6325(代)
HP：<https://tsurumi-fuzoku.ed.jp/>
学校法人 総持学園
鶴見大学附属中学校・高等学校